

地域共生社会を考えよう 県大 15日から連続講座

高知県立大学は15日、永国寺キャンパスで公開講座「地域共生社会を支援する」を開く。来年3月まで3回開催。初回は千葉大学予防医学センターの近藤克則教授が「自然に健康になれるまちづくり」と題して講演を行う。

今年4月に就任した甲田茂樹学長が目指す「存在感のある大学」に向けて立案、企画した。初回の15日は、社会環境と健康の関わりについて研究し、「長生きできる町」(角川新書)の著作もある近藤教授が「自然に健康になれる環境」とはどういうものか、産官学民の連携など具体事例を紹介。県大社会福祉学部の矢吹知之准教授の司会で県職員らとのシンポジウムも行う。

2回目は来年1月23日、京都大学大学院医学研究科の近藤尚己教授が「健康格差対策の進め方」について語る。3回目は3月16日、川崎市立井田病院の西智弘医師が薬ではなく、地域とのつながりを利用して人を元気にするという「社会的処方」の考え方や、全国の取り組みを紹介する。

甲田学長は「専門職はもちろん行政、県民、企業の方々に広く参加してもらい、活動を推進するきっかけに」と話している。

いずれも参加無料。初回は午後2時から。12月12日までに県大ホームページから申し込みが必要。問い合わせは県大教育研究戦略課(088・847・8815)へ。

(加治屋隆文)